

入院中の子どもをもつ家族の困り事に関する文献検討

倉橋 理香

キーワード：子ども，入院，家族，困り事

I. はじめに

子どもの入院は，急性気管支炎や肺炎，喘息といった呼吸器系の疾患が多く，こういった疾患は，入院時，急性期の症状を呈していることが多い。また，子どものなかでも，低年齢の入院が多く，付き添いが必要となり，子どもが入院することで，様々な調整が必要となる。福地ら¹⁾は，子どもが入院するという出来事が起こると，家族は，子どもの状態が不安定な中，家族自身も不安と混乱の最中に，入院に必要な物品準備や手続きのため，家族間で連絡を取り合ったり，一時的に帰宅して準備を整えたりするなど，対応に追われることになる²⁾と述べており，子どもが入院すると，家族は家族内で何らかの調整が必要不可欠となる。

家族にとって，子どもの入院は，ストレスが大きく，生活上に変化が生じ，身体的，心理的，社会的な安定感を脅かされる予測不能である状況的危機²⁾ととらえることができる。

ストレス状況におかれた家族は，ストレスを家族なりの方法で対処し乗り越えようと試みる。しかし，家族がこのストレス状況に適切に対処できなかった場合は，家族は不適応を起こし，危機に陥る²⁾といわれている。

養育期においていかに夫婦で子育てに取り組み，家族の発達課題を達成したかが，これ以降の教育期，分離期，成熟期の家族のありように多大な影響を及ぼす³⁾といわれている。何らかの健康問題を抱えている家族においては，発達課題と健康問題の対応への支援が必要²⁾となる。そのため，看護者は，健康問題を持つ子どもとともに生活する家族への支援において，家族がストレス状況に，うまく適応していくことができるよう支援していくことが必要不可欠である。

しかし，子どもが入院した時の家族への支援の必要性について言及された研究はあるものの，家族がどういっ

た困り事に直面するののかといったことを明らかにした研究はほとんど見当たらない。

そこで，本研究では，子どもの入院に伴う家族の困り事について明らかにすることを目的とした。家族の困り事を明らかにすることで，子どもが入院した時の家族の問題をアセスメントしていくための一助となり，家族が子どもの入院にうまく適応していくための支援につなげていきたいと考える。

II. 研究方法

1. 文献検索の方法および対象文献の選定

「医中誌Web (Ver. 5)」を用い，キーワードを「子ども」「家族or家族支援」「入院」とし，会議録を除き，最新10年分に限定して文献検索を行った。対象とする文献は，社会の情勢の変化や，共働き世帯の増加など，現代の家族の状況を反映していると考えられる最新10年とした。さらに，抄録のない文献は除外し，入院している子どもの家族に関する記載のある文献44件を精読した。その中から，入院している子どもの家族の困り事について記載のある文献12件を対象文献とした。

2. 文献の整理と分析方法

文献を精読し，子どもが入院しているときの家族の困り事に関する文脈を抽出し，マトリックス表を作成した。内容要素ごとに類似性に着目し，分類した。さらに意味内容を精読しカテゴライズした。

対象文献の中で，質問紙を用いたアンケート調査を行っている研究については，自由回答型質問，自由記載の結果から文脈を抽出した。

3. 用語の定義

家族の困り事：広辞苑によると，「困る」とは，処置に苦しむ。どうしてよいかわからず苦しむ。迷惑する，とされている。本研究における「家族の困り事」は，子どもの入院によって生じる身体的・心理的な負担や不

安、経済事情、家族関係・人間関係に関する負担や不安に対処できない様とした。

Ⅲ. 結果

1. 対象文献の概要

対象文献は、表1に示した。研究対象者は、母親が7件 (No. 1. 2. 3. 4. 7. 9. 10)、母親に限定しない親または保護者が5件 (No. 5. 6. 9. 11. 12) であった。入院中の子どもの年齢は、0～15歳と幅は広がったものの、平均年齢でみると、幼児期から学童前期までが10件 (No. 1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11) であった。

研究方法は、インタビューのみで調査を行っている質的研究が8件 (No. 1. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11)、質問紙とインタビューを組み合わせて調査を行っている研究が1件 (No. 2)、質問紙を用いて調査を行っている研究が3件 (No. 3. 4. 12) であった。

2. 家族の困り事に関する分析結果

子どもが入院した時の困り事は、【病児に対する心配】、【家族内での役割・生活の調整の難しさ】、【入院生活で生じる母親の気苦労】、【母親にかかる心身の負担】の4つのカテゴリーに分類された。カテゴリーは【 】、サブカテゴリーは〈 〉、具体例は「 」で示す。(表2)

1) 【病児に対する心配】

家族の【病児に対する心配】は、〈病状に対する心配〉〈病児の苦痛に対する心配〉〈病児の病気を受け入れられない〉〈病児の教育環境や友人関係の心配〉の4つのサブカテゴリーに分けられた。このカテゴリーは、病児のおかれている状態や病児の今後について心配や不安と定義した。

長期入院や、慢性疾患をもち入退院を繰り返している子どもをもつ親を対象とした文献では、「今の状態がわからず、これからどうなっていくのか怖かった (No. 5)」、「子どもが副作用による外見の変化を気にしていることへの気がかり (No. 11)」といった〈病状に対する心配〉や、「(児が) 今までできていたことができなくなる (No. 11)」、「食いたいものを食べられない (No. 8)」といった〈病児の苦痛に対する心配〉、「子どもの状態にショックを受け止められない (No. 5)」、「看護師みたいなことをやるなんてできない (No. 5)」といった〈病児の病気を受け入れられない〉こと、「副作用による友人との関係性の困難 (No. 11)」、「病気の先行きに関連した進学や就職の不安 (No. 11)」といった〈病児の教育

表1 文献一覧

文献No	著者名	年	タイトル	掲載誌名	研究方法	①研究対象 ②入院中の子どもの年齢
1	金子 沙世, 山口 桂子	2019	手術を目的とした短期予定入院児に付き添う母親の思いと生活行動の実態	日本小児看護学会誌(28),69-77	質的記述的研究 (インタビュー調査)	①母親20名 ②1か月～4歳8か月(平均月齢19.4±17.2ヶ月)
2	浅井 佳士	2019	子どもの短期入院に付き添う主養育者の疲労の変化と影響	小児依拠研究,78,(3),245-252	質問紙,インタビュー調査	①主養育者8名(全員母親) ②2歳～5歳
3	平谷 優子, 法橋 尚宏	2017	入院中の子どもをもつ家族と地域で生活する子どもをもつ家族の家族機能の比較研究	家族看護学研究,23,(1),2-14	アンケート調査 (回答選択型,自由回答型)	①入院中の子ども144名 ②0～15歳(入院中:4.7±4.6歳)
4	河井 真輝, 大澤 望, 山田 祥世, 他	2017	入院中の子どもにも付き添う母親への支援シートの作成	国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター医学雑誌,4,(1),88-93	アンケート調査 (回答選択型,自由記載)	①母親111名 ②乳児期15名, 幼児期13名, 学童前期18名, 学童後期13名
5	松浦 衣莉, 奈良間 美保	2017	子どもが乳幼児期に長期入院した経験をもつ親の体験	日本小児看護学会誌(26),144-151	質的記述的研究 (インタビュー調査)	①親11名(母親10名, 父親1名) ②1歳～6歳
6	平谷 優子, 徳田 真衣, 杉中 菜里, 他	2016	子どもの入院による子育て期家族の家族機能の変動	家族看護学研究,22,(2),97-107	質的記述的研究 (インタビュー調査)	①21家族(19:母親, 1:父親, 1:両親) ②0～15歳(4.1±4.5歳)
7	細野 恵子, 寺島 卓, 村 竜次, 他	2016	子どもの付き添い入院を経験した母親が看護師に求める要望	旭川大学保健福祉学部研究紀要(8)47-52	質的記述的研究 (インタビュー調査)	①母親6名 ②2歳6か月～5歳(2歳11ヶ月±1歳2ヶ月)
8	福井 美苗, 本田 順子, 法橋 尚宏	2016	子どもの長期入院に伴う家族役割変化によるストレスとコーピング	日本小児看護学会誌,(25),29-35	質的内容分析 (インタビュー調査)	①6家族(母親6名, 父親6名) ②0～14歳(平均8.7±3.5歳)
9	平谷 優子, 法橋 尚宏, 市来 真澄, 香, 他	2018	入院中の病児をもつ家族が看護師に期待する家族支援	家族看護学研究,24,(1),14-25	質的内容分析 (インタビュー調査)	①親10名(全員母親) ②0～14歳(平均4.2±4.0歳)
10	串崎 幸代, 大北 遥香	2015	子どもの入院につきそう親への支援	千里金蘭大学紀要,(12),19-26	質的記述的研究 (インタビュー調査)	①母親5名 ②0歳～2歳
11	大西 文子, 神道 那実, 増尾 美帆	2014	社会復帰過程における慢性疾患を持つ子どもと家族の抱える問題と専門職の支援	日本小児看護学会誌,23,(3),26-33	質的記述的研究 (インタビュー調査)	①保護者11組(母親か父親か不明10名, 1組両親) ②0～15歳(平均9.4歳)
12	飛田 良, 團田 悠馬, 池田 勇八, 他	2019	当院小児がん患者の保護者のニーズに関するアンケート調査	滋賀医科大学雑誌,32,(1),32-39	アンケート調査 (回答選択型,自由記載)	①保護者34名(母親か父親かは不明) ②乳児から中学生

表2 家族の困り事

カテゴリー	サブカテゴリー
病児に対する心配	病状に対する心配
	病児の苦痛に対する心配
	病児の病気を受け入れられない
	病児の教育環境や友人関係の心配
家族内での役割・生活の調整の難しさ	家事の調整が必要なことによる負担
	家族員への遠慮や気遣い
	病児のきょうだいに対する心配
	家族の環境の変化
入院生活で生じる母親の気苦労	共同生活の負担
	付き添いにより制限される生活に対する負担
	看護師に対する遠慮
	看護師や病院の対応に対する不満
	経済的な負担が増加することへの不安
母親にかかる心身の負担	時間的な余裕の無さ
	帰宅時の負担
	仕事を中断することの負担
	仕事を継続しないといけな事情
	周囲から支援が得られないことの負担
	睡眠不足
	体調管理の難しさ

環境や友人関係の心配)が報告されていた。

〈病児の苦痛に対する心配〉のサブカテゴリーでは、さらに「寝てもすぐ起きるし心配で離れられない (No. 1)」「子どもが痛みを訴えることができなくて泣く (No. 2)」「術後の傷の痛みで寝返りできなかつたり制限がある (No. 1)」といった困り事の報告があった。

2) 【家族内での役割・生活の調整の難しさ】

【家族内での役割・生活の調整の難しさ】は、〈家事の調整が必要なことによる負担〉〈家族員への遠慮や気遣い〉〈病児のきょうだいに対する心配〉〈家族の環境の変化〉の4つのサブカテゴリーに分けられた。このカテゴリーは、子どもの入院によって家族員に生じる問題を調整する難しさと定義した。

子どもの入院に伴う家族機能の変動や付き添いに関する文献で、「付き添いで今までしていた家事ができず家がむちゃくちゃ (No. 8)」、「母親が家事をできないため慣れていない父親が役割を補完しないといけない (No. 6)」といった〈家事の調整が必要なことによる負担〉、「役割代行をしている家族員への気遣い (No. 8)」や「病院への送迎など、サポートしてくれる人への遠慮 (No. 8)」、「祖父母が高齢で負担が増え祖母が疲労している (No. 2)」といった〈家族員への遠慮や気遣い〉、「きょうだいの生活に関する心配 (No. 6)」、「病児のきよ

うだいがもつ疎外感への気がかり (No. 8)」などの〈病児のきょうだいに対する心配〉、「病児を中心とした家族の生活 (No. 6)」、「次子妊娠に対する計画の変更 (No. 6)」などの、〈家族の環境の変化〉といった困り事の報告があった。

3) 【入院生活で生じる母親の気苦労】

家族の【入院生活で生じる母親の気苦労】は、〈共同生活の負担〉〈付き添いにより制限される生活に対する負担〉〈看護師に対する遠慮〉〈看護師や病院の対応に対する不満〉〈経済的な負担が増加することへの不安〉の5つのサブカテゴリーに分けられた。このカテゴリーは、病児の付き添いに伴って生じる入院生活の生活・経済的負担と定義した。

付き添いに関する文献で、「話し声がうるさいのではないかという心配 (No. 10)」、「共同部屋における同室者への気遣い (No. 10)」、「他のママから話かけられるがほっておいてほしい (No. 1)」といった〈共同生活の負担〉、「子どものそばを片時も離れられない (No. 1)」、「ベッドが狭いなど劣悪な付き添い環境 (No. 6)」、「入浴と食事の環境が悪い (No. 12)」、「横になって身体を休める場所がない (No. 9)」といった〈付き添いにより制限される生活に対する負担〉といった困り事の報告があった。

また、付き添う母親の実態や母親の要望に関する文献で、「どこまで看護師さんがやってくれるかわからない (No. 1)」、「なかなか看護師に頼れない (No. 9)」、「看護師が忙しそうで言いにくい (No. 4)」、「ナースコールを押すタイミングをためらう (No. 1)」といった〈看護師に対する遠慮〉や、「予定がころころ変更する (No. 9)」、「看護師に声をかけたことを後悔した (No. 9)」、「言葉遣いに気を付けてほしかった (No. 4)」といった〈看護師や病院の対応に対する不満〉などの困り事が報告されていた。

また、付き添いのための家族機能の変動や役割調整に関する文献で、「退職や勤務時間の減少による収入の減少 (No. 8)」、「生活費にお金がかかる (No. 3)」、「子どもの入院に伴う経済的負担が増えた (No. 6)」といった〈経済的な負担が増加することへの不安〉があると報告されていた。

4) 【母親にかかる心身の負担】

【母親にかかる心身の負担】は、〈時間的な余裕のなさ〉〈帰宅時の負担〉〈仕事を中断することの負担〉〈仕事を継続しないといけない事情〉〈周囲から支援が得られないことの負担〉〈睡眠不足〉〈体調管理の難しさ〉の7つのサブカテゴリーに分けられた。このカテゴリーは、子どもの入院に伴って、母親に生じる身体的・心理的負担と定義した。

付き添いの実態や、付き添いのための家族機能の変動や役割調整に関して述べている文献で、「時間的拘束による自由時間の減少 (No. 8)」、「家事などの時間配分がうまくいかない (No. 3)」、「家族みんなで共有する時間が減った (No. 9)」といった〈時間的な余裕のなさ〉、「一時帰宅時できていない家事を短時間で済まさなければならない (No. 8)」、「帰宅しても家事があり休めない (No. 2)」といった〈帰宅時の負担〉、「仕事を休めるよう職場内異動し仕事量を調整しないといけなかった (No. 8)」、「入院前の母親の仕事を継続できない (No. 6)」といった〈仕事を中断することの負担〉、「入院中も仕事が休めない日があった (No. 2)」、「付き添いをしながら仕事をしないといけない (No. 2)」といった〈仕事を継続しないといけない事情〉などの困り事が報告されていた。

また、付き添いをする母親の疲労や母親が看護師に求める支援に関連した文献で「父親の帰りが遅く頼りたいが頼れない (No. 2)」、「祖父母に付き添いの交代を頼めない (No. 2)」、「祖父母が遠方で頼れない (No. 2)」と

いった〈周囲から支援が得られないことの負担〉、「仮眠は取れ、病院で寝れるが眠い (No. 2)」、「子どもが泣いて寝れない (No. 2)」などの〈睡眠不足〉、「簡易ベッドで腰の痛みがかなりきつかった (No. 9)」、「偏った食事 (No. 9)」、「母親自身の生活の困難 (No. 10)」、「体調不良 (腹痛や便秘異常、腰痛) (No. 9)」といった〈体調管理の難しさ〉などの困り事が報告されていた。

IV. 考察

文献検討の結果より、子どもが入院した際の困り事には、入院する【病児に対する心配】があり、また、【家族内での役割・生活の調整の難しさ】、【入院生活で生じる母親の気苦労】、【母親にかかる心身の負担】の4つのカテゴリーが明らかになった。これらの結果から以下の2点について考察する。

1. 付き添いによって生じる困り事

子どもが入院すると、付き添いを余儀なくされる。付き添いをする事で、【家族内での役割・生活の調整の難しさ】、【入院生活で生じる母親の気苦労】、【母親にかかる心身の負担】といった困り事が生じていた。入院する子どもにとって、親がそばにいることは、子どもが親という権利を守る上で重要である。半面、今回の文献検討の結果から、付き添う親には生活の調整等の負担がかかっていることが示された。村山ら⁴⁾は、付き添いをする事で、家族は様々な役割や生活上の変化、負担を余儀なくされる。また、準備することや、調整しないといけないことが山のようにでてくると述べており、家族内での役割・生活の調整の難しさは、付き添うことで生活の場が家庭と病院に二分されたことによって生じる困り事であるといえる。

また、病棟の環境によっては、付き添い者の睡眠環境が整っていない場合や、食事・入浴の不自由さ等が母親の負担になっていた。松井ら⁵⁾は、付き添いをする親の負担に、子どもから目を離せない環境でトイレや食事が制限されるなど、子どもの療養生活への不満があると報告しており、付き添うための環境整備も課題となると考える。

子どもの入院では、子どもの付き添いに伴い、生活の場が二分され、家庭内での役割調整や生活調整が生じることで困り事や、病棟の付き添いの環境に伴う困り事など、子どもの付き添いに伴い生じる困り事があったと考える。

2. 支援のニーズがあっても助けを求めにくい心情

本研究の結果から、〈周囲から支援が得られないことへの負担〉〈時間的な余裕のなさ〉などの家族が支援を必要としている状況でありながら、〈家族員への遠慮や気遣い〉〈看護師に対する遠慮〉があるという結果のように、支援が活用しにくい状況があるということがわかった。Richard S. Lazarus & Susan Folkmanは、ストレス対処の原動力は、金銭や援助者といった直接対処に利用できるものがあることと、そのようなものを見つけ出し利用していくためのコンピテンスがあることといった、2つの側面から成り立っている⁶⁾と述べている。子どもが入院したことで、親の付き添いが必要になり、その結果、家族の生活に多大な影響が生じるという状況は、明らかにストレスフルな状況であり何らかの対処を講じる必要がある。しかし、配偶者や祖父母といった身近にいる人々は、必ずしも支援者として活用されていなかった。このことは、子どもの入院に際して親族は必ずしも支援者として位置付けにくいのではないかと考える。現代における就業率をみると、児童のいる世帯における母の「仕事あり」の割合は72.4%⁷⁾、60歳～64歳の就業率は68.8%、65歳～69歳の就業率は46.6%⁸⁾となっており、子どもの親世代も祖父母世代も、家族内での役割以外の役割があり、余力がなくなっていることがうかがえる。また、現代における世代間交流の希薄さ等の特徴が支援を求める行動を躊躇させていることも考えられる。よって、子どもの入院に伴う困り事に対し、資源となりそうな親族が存在したとしても、心情的な困難感があることを理解する必要がある。

子どもの入院中、身近な支援者として看護師が存在するが、本研究結果では、〈看護師に対する遠慮〉があり、看護師の忙しさや依頼する範疇がわからないこと、また、看護師の態度に敏感になっている様子がわかった。このことから、看護師が家族のストレス対処に必要な支援者として認識されていない場合もあると考える。したがって、看護師側から家族の困り事への積極的な介入姿勢で関わる必要があると考える。

V. 結語

子どもの入院に伴って生じる家族の困り事について12

文献を用いて検討した結果、【病児に対する心配】、【家族内での役割・生活の調整の難しさ】、【入院生活で生じる母親の気苦労】、【母親にかかる心身の負担】があった。家族が子どもの入院という出来事にうまく適応していくためには、付き添いによって家族内での調整の大変さや生活が、二分されることでの負担があること、支援を求めたいのになかなか求められないという心情があることを理解したうえで支援が必要であると考えた。

子どもが入院することで生じる困り事は、子どもの年齢によっても異なってくると考える。また、子どもの入院は、緊急で入院が必要となることも多いため、そういった場合の家族の困り事はこういったことがあるのか明らかにしていくことが、今後の課題である。

引用文献

- 1) 福地麻貴子：子どもの緊急入院が家族に及ぼす影響，小児看護，34(13)，1704-1711，2011.
- 2) 法橋尚宏，池添志乃：新しい家族看護学 理論・実践・研究，(第1版)，69-70，メヂカルフレンド社，東京，2018.
- 3) 鈴木和子，渡辺裕子，佐藤律子：家族看護学理論と実践，(第5版)，148-152，日本看護協会出版会，東京，2019.
- 4) 村山有利子：【小児の入退院支援】子どもの状況に合わせた入退院支援 医療的ケアが必要となった子どもと家族への支援，小児看護，42(8)，1018-1024，2019.
- 5) 松井彩奈，西元康世：子どもの入院に付き添う親の負担の現状と家族支援の方向性，千里金蘭大学紀要，14，163-170，2018.
- 6) Richard S. Lazarus & Susan Folkman，(1984)/本明寛，青木豊，織田正美(2020)．ストレスの心理学 [認知的評価と対処の研究] (第12版)，166-174，実務教育出版，東京．
- 7) 厚生労働省2019年国民生活基礎調査の概況，世帯数と世帯人員の状況
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/dl/02.pdf>
- 8) 総務省統計局，労働力調査，2 高齢者の就業
<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1212.html>